



令和2年度

活動報告書

和歌山県立医科大学 地域医療支援センター

CONTENTS

はじめに	1
業務内容	2
年間スケジュール	3
医師不足状況等の把握・分析	6
●和歌山地域医療マネジメント研究会	
医師不足医療機関の支援、緊急時医師派遣・若手医師支援	7
●地域医療枠・県民医療枠医師配置	
●地域医療学講座・医師配置	
●地域医療機関医師適正配置検討委員会	
●遠隔医療支援システム	
●遠隔外来	
●遠隔講義聴講	
●遠隔救急支援システム	
医師のキャリア形成支援、地域医療従事医師の養成	11
●AHA-BLSヘルスケアプロバイダーコース	
●新入生説明会	
●地域医療枠・県民医療枠セミナー	
●学会早期体験研修	
●JMECC（内科救急・ICLS）講習会	
●和歌山県知事表敬訪問	
●病院見学（県民医療枠）	
●夏季研修（地域医療枠）	
●専門研修プログラム説明会	
●キャリア形成計画（ヒアリング）	
●紀伊半島地域医療連絡協議会	
●医師臨床研修指導医講習会	
●プライマリ・ケアセミナー	
●WING（自主勉強会）	
●和歌山研修ネットワーク事務局の運営	
●選択制臨床実習の支援及びスキルラボの充実	
情報発信と相談への対応	18
●医学部説明会	
●オープンキャンパス	
●地域医療学講義	
●報告書等の作成	
●ホームページ・Facebookの運用	

はじめに

平素より当センターの活動と地域医療枠・県民医療枠学生、研修医の教育にご高配を賜り、誠にありがとうございます。

当センターは、平成23年4月に和歌山県からの委託により和歌山県立医科大学内に設置され、本県の課題である医師の地域偏在及び診療科偏在の解消に向けて様々な取組を行っています。

卒業後9年間へき地医療拠点病院を中心に研修を行う「地域医療枠医師」、地域中核病院での研修を行う「県民医療枠医師」の1期生は、令和3年度で医師8年目となり、県内医療機関で活躍するとともに、県内医療機関からの医師配置要望にも徐々に応えられる段階に入ってきています。

今後も県の医療計画に沿って、県、県内医療機関、県医師会および病院協会等との連携を密にしながら、地域医療の充実に向けてさらなる努力を行ってまいります。

その為には能力の高い医師を多く育てる必要があると考えています。能力が高い医師について私はよく山にたとえて話をしています。裾野は「人を診る力」と「病気を診断する力」にあたり、山頂は「病気を治療する専門医力」にあたります。裾野が広ければ広いほど、山頂も自ずと高くなります。私は富士山のような、広い裾野と高い山頂を持った、つまり、総合診療能力と高い専門知識、技量を持った医師を育成したいと思っています。

平成26年に構築した遠隔医療支援システム（インターネットを利用したテレビ会議システム）につきましては、県内公的病院等26施設へシステム端末を設置するとともに、平成29年度より3年間にわたり、NTTドコモ、和歌山県との協働で5Gを活用した遠隔診療に関する実証試験を実施しました。

また、平成30年度から始まりました新たな専門医制度につきましては、専門研修プログラム説明会を開催するとともに、ホームページ上に附属病院各診療科のプログラムを掲載するなど広報に努め、後期研修医の獲得に貢献しました。

今後も「地域の住民の皆さんが医療に困らないための仕組みづくり」に向け、地域の医療機関と連携しながら若手医師の育成と適正配置を進めていきたいと考えておりますので、皆様方のご支援、ご指導をお願い致します。



和歌山県立医科大学 地域医療支援センター
センター長・教授 上野 雅巳

業務内容

医師不足状況等の把握・分析

- 和歌山地域医療マネジメント研究会の開催

医師不足医療機関の支援、緊急時医師派遣・若手医師支援（地域医療学講座）

- 若手医師が勤務する医師不足医療機関への指導医派遣
- 医師不足医療機関への支援（緊急的診療応援）
- 地域医療機関医師適正配置検討委員会の運営
- 遠隔医療支援システムの運用
- 遠隔医療の推進

医師のキャリア形成支援・地域医療従事医師の養成

- 地域医療枠、県民医療枠新入生説明会及び知事表敬訪問の実施
- 地域医療枠、県民医療枠学生対象セミナーの実施
- 専門研修プログラム説明会の開催及びキャリア形成プログラム冊子の作成
- 地域医療枠、県民医療枠6年生進路面談の実施
- 夏季研修

地域医療枠学生：自治医科大学及び近畿大学医学部和歌山県地域枠学生との合同研修を実施

県民医療枠学生：県内中核病院見学を実施

- 地域病院実習（6年生）の支援
- 三重大学、奈良県立医科大学合同による紀伊半島地域医療連絡協議会への参加
- AHA-BLSヘルスケアプロバイダーコース講習会の開催
JMECC（内科救急・ICLS）講習会の開催
- 地域医療枠、県民医療枠医師対象ヒアリングの実施及びキャリア形成計画の作成
- 医師臨床研修指導医講習会の開催
- スキルスラボの充実
- プライマリ・ケアセミナー及び勉強会の開催
- 和歌山研修ネットワーク事務局の運営

情報発信と相談への対応

- 医学部説明会による和歌山県立医科大学医学部募集枠説明会の実施
- 県内医療機関に就業を希望する医師に対する斡旋・相談の実施
- 医学部オープンキャンパスでの地域医療に対する情報発信の実施
- 地域医療学講義の実施
- 地域医療支援センターパンフレットの作成
- ホームページ、Facebookの運用

年間スケジュール

4

APRIL

地域医療枠・県民医療枠新入生説明会（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

5

MAY

地域医療枠・県民医療枠学生対象セミナー（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

7

JULY

知事表敬訪問（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
和歌山県立医科大学医学部募集枠説明会

8

AUGUST

夏季研修（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
病院見学（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
医学部オープンキャンパス
（令和2年度はオンラインでの開催）



専門研修プログラム説明会



9
SEPTEMBER

三重大学、奈良県立医科大学合同による紀伊半島地域医療連絡協議会
(令和2年度はオンラインでの開催)
第1回 JMECC (内科救急・ICLS) 講習会



10
OCTOBER

第1回 プライマリ・ケアセミナー (新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

11
NOVEMBER

AHA-BLS ヘルスケアプロバイダーコース講習会



12
DECEMBER

医師臨床研修指導医講習会 (令和2年度はオンラインでの開催)



1

JANUARY

第2回 プライマリ・ケアセミナー（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

2

FEBRUARY

地域医療枠・県民医療枠セミナー



3

MARCH

学会早期体験研修
和歌山地域医療マネジメント研究会



第2回 JMECC（内科救急・ICLS）講習会



医師不足医療機関の支援 緊急時医師派遣・若手医師支援

地域医療枠・県民医療枠医師配置

へき地医療拠点病院を中心に研修を行う「地域医療枠医師」、地域中核病院での研修を行う「県民医療枠医師」の配置状況は別図のとおり。

なお、地域医療枠医師及び県民医療枠医師の1期生は医師7年目となり、今後も県内医療機関で活躍する医師が増加する予定。

●医師配置状況

保健医療圏	地域医療枠	県民医療枠	合計
和歌山(和歌山市)		11	11
和歌山(海南市、紀美野町)	3	4	7
那賀		4	4
橋本	1	8	9
有田	1	2	3
御坊	2	5	7
田辺	7	10	17
新宮	6	4	10
合計	20	48	68

●学生数(参考)

区分	地域医療枠	県民医療枠	合計
医学部1年生	10	21	31
医学部2年生	10	21	31
医学部3年生	9	23	32
医学部4年生	10	23	33
医学部5年生	5	32	37
医学部6年生	6	18	24
合計	50	138	188

地域医療学講座・医師配置

和歌山県立医科大学の医師(指導医)が自治医科大学や地域医療枠等を卒業した若手医師が勤務する医師不足医療機関にローテーションで出向する仕組みを運用し、指導医は出向先である当該医療機関で勤務して地域医療の充実に貢献するとともに、同じく勤務する若手医師の指導を行った。

●緊急時医師派遣・若手医師支援 (地域医療学講座による指導医の配置)

有田市立病院内科	2名
国立病院機構和歌山病院内科	1名
新宮市立医療センター内科	1名

●医師配置状況(令和2年4月1日現在)

県内公的病院等 439名(右図のとおり)



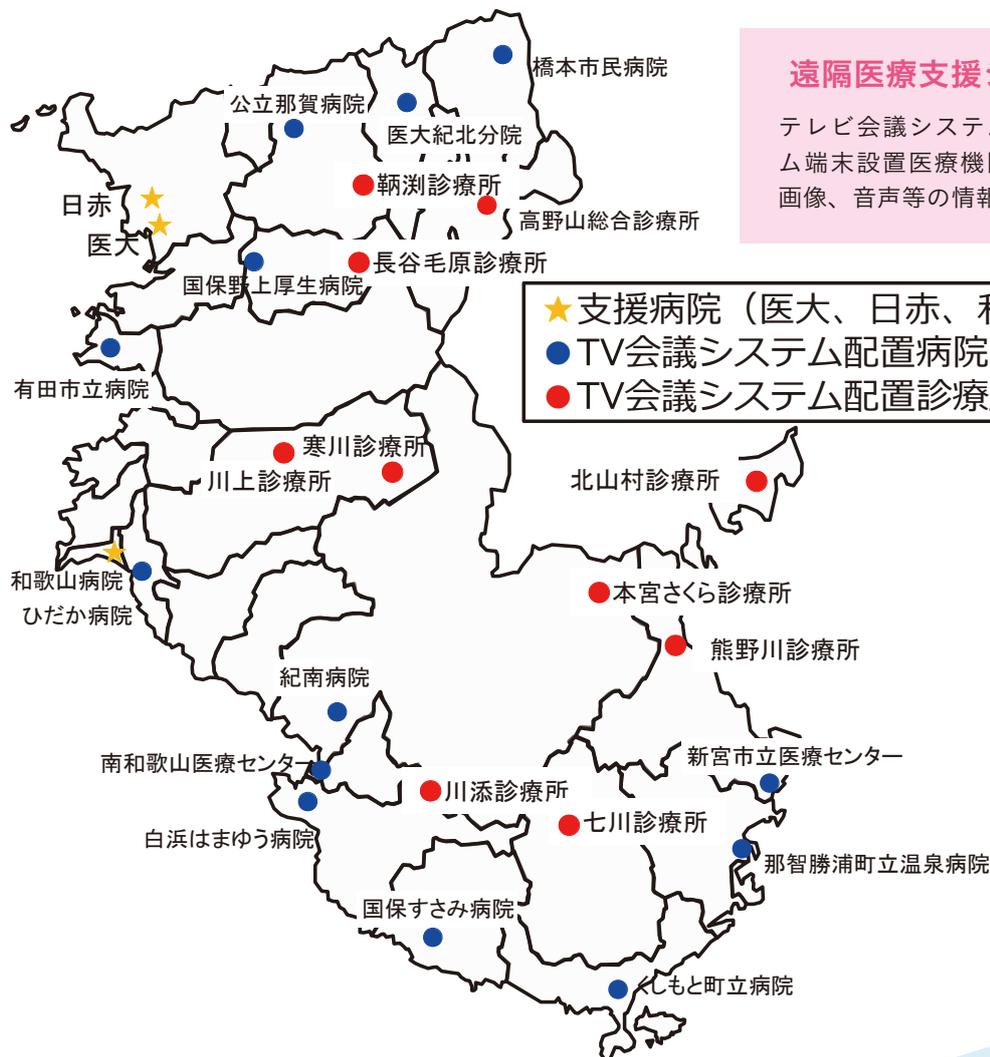
県内公的病院等への医師配置状況

地域医療機関医師適正配置検討委員会

地域医療機関からの新規の常勤医師紹介要請に対して、支援の必要性について審議する「地域医療機関医師適正配置検討委員会（平成 25 年設置）」を学内に設け、大学として一元的に対応した。

遠隔医療支援システム

へき地診療所等に遠隔医療支援システム端末を設置し、遠隔外来支援、遠隔講義聴講を実施することにより、勤務医師の診療支援及び地域医療枠医師等のキャリア形成を支援した。



遠隔医療支援システムとは？

テレビ会議システムを利用し、システム端末設置医療機関とリアルタイムで画像、音声等の情報交換が可能。

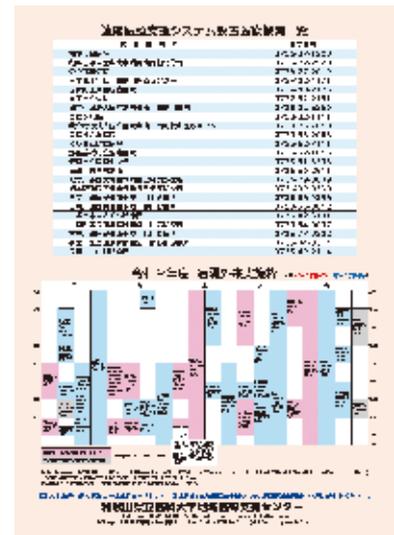
- ★ 支援病院（医大、日赤、和歌山）
- TV会議システム配置病院（13施設）
- TV会議システム配置診療所（10施設）

- 平成 25 年度末までに本学と県内 13 公的医療機関にシステム端末を設置
- 平成 27 年度末には、平成 28 年度から地域医療枠医師が勤務する紀南病院を含め、新たに 3 医療機関にシステム端末を設置
- 平成 29 年度末には、新たに 6 医療機関にシステム端末を設置
- 平成 30 年度末には、新たに 4 医療機関にシステム端末を設置

遠隔外来

和歌山県立医科大学附属病院から遠い地域に住む県民が地元の医療機関で本院の専門医のアドバイスを受けることが可能となる遠隔外来を実施した。

令和2年度は、実施枠を21診療科45専門外来に拡大した。



● システム端末設置医療機関との協定の締結や本院における実施診療科の選定等を経て、平成26年7月11日から実施している。

● 令和2年度実績（83件）

食道外科……………	1件	糖尿病・内分泌代謝内科……………	1件
血液内科……………	4件	皮膚科……………	28件
循環器内科……………	3件	病態栄養治療部（栄養指導）……………	8件
神経精神科……………	4件	麻酔科……………	1件
整形外科……………	1件	紀北分院内科……………	1件
看護キャリア開発センター（新型コロナウイルスに関するメンタルヘルス相談）……………	31件		

● 遠隔外来広報チラシ及びポスターを作成し関係者へ配付するとともに、ホームページや病院広報誌「まんだらげ」及び県民の友を通じて、県民への周知を図った。

● システム端末設置医療機関を訪問し、医師や関係職員へ利用状況をヒアリングするとともに、利用方法等について個別説明を実施した。



遠隔講義聴講

地域医療枠医師が地域の医療機関での勤務を開始したことに対応し、本学まで来ることなく勉強会に参加できるように遠隔医療支援システムを整備している。

また、本学で開催される講演会やセミナー等をシステム端末設置医療機関の希望に応じて配信するなど、最新の医療情報等をより広く早く伝えることにより、地域医療を支援した。

- 平成28年度から平成30年度まで、当センター主催の「プライマリ・ケア勉強会(医師向け)」を配信(受講できなかった医師のために録画も実施)
- 平成27年度から継続して、和歌山県立医科大学臨床研究センター主催の「臨床研究セミナー」の配信や本学附属病院内の研修会、医大及び県主催の各種会議の配信等で利用
- 令和元年度より、「リハビリテーション医局会」におけるカンファレンスで利用
- 令和2年度は、和歌山県臨床研修プログラム検討部会等の会議で利用
- 地域医療枠医師へのキャリア形成面談や、公的医療機関へのヒアリング時に利用

遠隔救急支援システム

平成31年4月より本格運用を開始した遠隔救急支援システムについては、県内13医療機関に加え、本院医師の私用端末にも配備することで、院内外にいる医師間での救急患者の検査画像の共有が可能となり、よりスムーズで効率的な患者対応ができるなどの救急医療体制の強化を図った。

令和2年度のシステム利用実績件数は計127件であり、手術等の迅速な受入態勢確保や不要不急の三次病院への転送防止など、患者の救命や医師の負担軽減の可能性につながった。



医師のキャリア形成支援 地域医療従事医師の養成

AHA-BLS ヘルスケアプロバイダーコース

令和2年4月7日（火）に県内の臨床研修病院で採用された研修医103名を一堂に集め、研修医の交流と心肺蘇生の確実な実技取得を目的に講習会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止となった。

令和2年11月より、月1回、受講者を10名に減らし講習会を実施しており、令和3年5月に令和2年度採用の県内の研修医全員が受講を終える予定である。



新入生説明会

例年4月には、新入生を対象に、地域医療枠、県民医療枠の説明会が開催され、それぞれの募集枠の趣旨を新入生に詳しく説明、再認識を促すとともに卒前卒後のキャリア形成支援や研修・制度等について説明する。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかったため、令和3年度に1・2年生を対象にオンライン説明会を開催予定である。

地域医療枠

プライマリ・ケアを実践し、高い総合的能力を有する医師及び医師研究者を育てる。

和歌山県から修学資金が貸与される募集枠で、卒業後9年間のうち5年間は、へき地医療拠点病院等を中心に研修を行う。

県民医療枠

和歌山県の地域医療に携わるとともに、医療・医学のリーダーとして活躍できる人材を育てる。

卒業後9年間のうち4年間は、地域の中核的役割を果たす県内公的病院で研修を行う。

地域医療枠・県民医療枠セミナー

令和3年2月15日（月）に、地域医療枠、県民医療枠1～6年生を対象にZoomを用いたオンラインセミナーを開催し、宮下学長による講演とグループ討論を実施した。また、山野副センター長による学会参加についての説明会を実施した。参加者146名



学会早期体験研修

令和3年3月26日（金）～28日（日）に、地域医療枠・県民医療枠1～6年生の希望学生が、第85回日本循環器学会学術集会にオンライン参加をした。参加者4名



JMECC（内科救急・ICLS）講習会

令和2年9月5日（土）及び6日（日）、令和3年3月20日（土）、卒業後3年目以降順次地域の医療機関で勤務を開始することになる地域医療枠及び県民医療枠医師等の能力向上を図るため、主に研修医2年目を対象として講習会を開催した。

「ICLS」を基礎に「内科救急」をプログラムに導入した講習会で、内科医養成の一環として取り組んだ。

令和2年9月5日（土）

JMECC（内科救急・ICLS）講習会



令和2年9月6日（日）

JMECC（内科救急・ICLS）講習会



和歌山県知事表敬訪問

令和2年7月に地域医療枠・県民医療枠及び近畿大学医学部和歌山県地域枠の1年生を対象に知事表敬訪問を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

病院見学（県民医療枠）

県民医療枠4年生を対象に、夏季休業中に卒業後に勤務する県内公的医療機関の見学を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した。

夏季研修（地域医療枠）

地域医療枠、和歌山県出身の自治医科大学及び近畿大学和歌山県地域枠の1～5年生が合同で、県内へき地等の医療現場や保健所及び県外の医療現場で研修・見学を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した。

専門研修プログラム説明会

令和2年8月31日（月）に、本院の初期研修医を対象に「専門研修プログラム説明会」を開催した。

参加診療科

和歌山県立医科大学附属病院

- 内科
- 産科・婦人科
- 麻酔科
- 小児科
- 耳鼻咽喉科
- 病理診断科
- 皮膚科
- 眼科
- 救急科
- 神経精神科
- 泌尿器科
- 形成外科
- 外科
- 脳神経外科
- リハビリテーション科
- 整形外科
- 放射線科

わかやま社会医学系専門医研修プログラム管理委員会

- 社会医学



キャリア形成計画（ヒアリング）

地域医療枠・県民医療枠・近大和歌山県枠学生及び医師のキャリア形成支援の一環として、県の委託を受けて面談・ヒアリングを実施した。

- 令和2年6月～7月に地域医療枠医師に対し、遠隔医療支援システムを利用しヒアリングを実施した。

地域医療枠医師勤務先 (遠隔医療支援システムを利用)

- 橋本市民病院
- 国保野上厚生総合病院
- 県立こころの医療センター
- ひだか病院
- 紀南病院
- 紀南こころの医療センター
- 国保すさみ病院
- 那智勝浦町立温泉病院
- 新宮市立医療センター

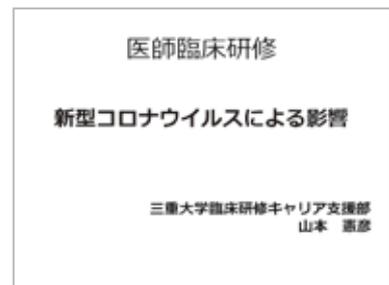
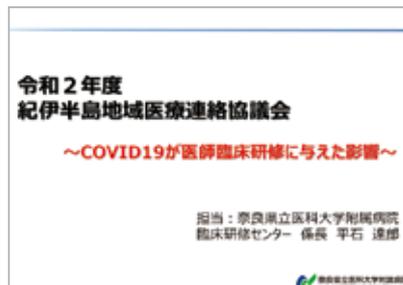
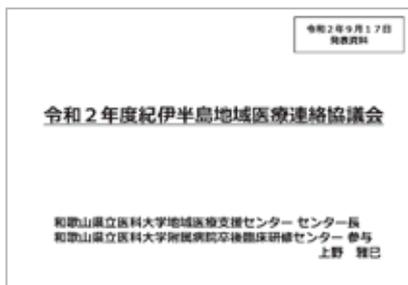
- 同6月に地域医療枠及び県民医療枠6年生に対して、卒業後の進路に関する面談を実施した。
- 同9月～10月に2年目研修医（地域医療枠、県民医療枠及び近大和歌山県枠）に対して卒後3年目以降のキャリア形成についてヒアリングを実施した。
- 同年11月に地域医療枠医師に対して、次年度の勤務先についてヒアリングを実施するとともに、和歌山県・地域医療支援センター・地域医療枠医師との交流会を開催した。
- 令和3年3月に県民医療枠医師が所属する診療科長に対して、個人毎のキャリア形成計画（卒業後3年目以降の勤務先病院）の作成を依頼・更新した。
- このほか、地域医療枠及び県民医療枠の学生及び医師に関する個別事案への対応手順を定め、入学時に誓約している卒業後9年間のキャリア形成を本学及びへき地医療拠点病院又は地域中核病院で行うこと等に関して、義務の猶予等の申し出等があった場合、適切に対応できる体制を構築・運用している。



紀伊半島地域医療連絡協議会

三重大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学の初期臨床研修医、教員等が一堂に会し、紀伊半島の地域医療、特にへき地医療について協議することにより、連携体制を構築するとともに、地域医療に貢献する医療人を育成することを目的として毎年輪番制で開催しており、令和元年度については奈良県において開催された。

令和2年9月17日（木）に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためオンラインにて開催され三重県及び奈良県の大学行政関係者と「COVID19が医師臨床研修に与えた影響と工夫」をテーマに意見交換会を実施した。

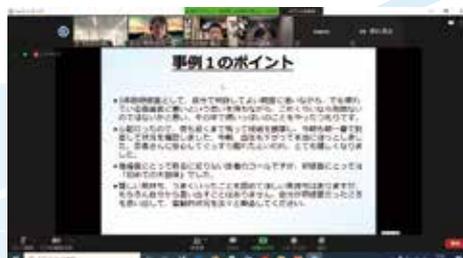


医師臨床研修指導医講習会

令和2年12月5日（土）、同年12月6日（日）、初期臨床研修医を指導する指導医を養成するとともに、臨床研修指導医の資質向上及び臨床研修を行う病院における適切な指導体制の確保に資するため、和歌山県内の病院に勤務する医師を対象とした医師臨床研修指導医講習会を開催した。

筑波大学附属病院 副病院長 前野 哲博 先生を主催責任者に迎え、厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った講習会として実施した。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のためオンラインにて開催した。講習内容は、「研修医のプロフェッショナルイズム教育」、「安全で効果的な臨床技能教育」、「指導医に求められる役割」、「研修医のメンタルヘルスケア」、「忙しい臨床現場でのフィードバック技法」、「効果的なカンファレンスの進め方」等であり、講義やグループワークを交え、45名が修了した。



プライマリ・ケアセミナー

総合的な診療能力を有する医師に必要となる知識や技能を学ぶとともに、総合診療についてより理解を深めることを目的とし、総合診療に携わる指導医、総合診療に興味のある学生及び研修医等を対象にプライマリ・ケアセミナーが毎年開催されるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止した。

WING（自主勉強会）

令和元年4月より、卒後1～9年目の地域医療枠医師及び自治医科大学卒業医師を対象とした自主勉強会を月1回実施し、遠隔医療支援システムを利用して配信を行っていたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため実施を自粛した。

和歌山研修ネットワーク事務局の運営

“和歌山研修ネットワーク”とは、和歌山県内9つ全ての基幹型臨床研修病院（大学病院を含む。）が相互に協力型病院となることにより、病院や診療科の選択肢を広げた臨床研修プログラムであり、当センターで事務局運営を実施し、研修医受入可能人数等を照会するなどネットワークを円滑に運用した。

令和2年度の利用件数は263件（月単位で利用件数を集計）

選択制臨床実習の支援及びスキルスラボの充実

選択制臨床実習の期間に本学医学部6年生が地域の病院で行う実習の支援や若手医師が手技等を練習する場所であるスキルスラボの充実を図った。



情報発信と相談への対応

医学部説明会

令和2年7月10日（金）に紀三井寺キャンパス図書館棟3階研修室にて開催され、県内の高等学校進路指導教員に対し、上野センター長が「進路について」をテーマに説明を行った。

オープンキャンパス

医大 YouTube チャンネルを活用した医学部オープンキャンパスに参加し、上野センター長による「和歌山の医療の現状」についての講演と、「地域医療支援センターの施設案内」及び「遠隔外来の紹介」について録画配信を行った。



地域医療学講義

和歌山県立医科大学医学部2～4年生には、「地域医療学」の講義やグループワークを実施した。



ホームページ・Facebook の運用

地域医療支援センターホームページや Facebook を通じて、随時活動状況を発信した。
また、ホームページの更新を行った。



医師を目指す方へ

医師になるには

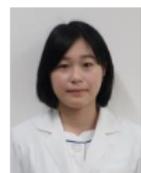
先輩からのメッセージ

先輩からのメッセージ



地域医療科 8期生
田谷 一樹

医師を目指す皆様へ
和歌山県立医科大学附属病院は県下で唯一の大病院として、和歌山県の医療の中核をなしており、基礎研究をはじめ臨床研究や治療を推進し、地域の特性を生かした先端医療を開発することで、より質の高い医療を提供しています。
地域医療科では、夏期休暇を利用した実習があります。1年生から4年生までは和歌山県の各地の地域医療、5年生では県外の地域医療に触れる機会があり、その中で地域医療に求められる医療や医師像などについての理解を深め、将来自分が和歌山県でどのような医療をしたいのかをじっくりと考えることができます。
地域医療といえば田舎で働くだけ、というイメージが強いかもしれませんが、超高齢化社会へと突入していくこれからの日本の医療において、地域医療は今よりもっと重要な役割を担うこととなります。その中でも特に高齢化が進んだ和歌山県は、未来の高齢化した日本の縮尺とも言え、視点を変えれば、和歌山県での地域医療は日本の地域医療の最先端と足えることもできます。地域医療に少しでも興味をもって、地域医療科での入学を考えていただければ幸いです。



県民医療科 8期生
大星 瑛希子

医師を目指す皆さんへ
県民医療科では、地域医療に携わるとともに、医療・医学のリーダーとして活躍できる人材を育成するために、入学時より5年間の一貫した医学教育を受けることができます。学生の届にはセミナーや実習といった、県内で医療に専事するための準備となるプログラムが用意されています。例えば、県内の中核病院での実習では、初めて大病院以外での診療を見学させていただき、将来働く病院がどのような病院なのかを体感することができました。
卒業後は、和歌山県内の研修プログラムを利用して初期研修を行うことができます。和歌山県の研修プログラムは自由度が高く、最先端の医療から地域での診療まで非常に幅広い研修を受けられるため、キャリア形成の基礎となる充実した2年間を過ごすことができます。また、初期研修終了後にも大病院と中核病院での研修を重ねることにより、より良い医師になれるようなプログラムとなっています。
みなさんも是非、和歌山県立医科大学という最適な環境で一緒に医療を学びましょう。

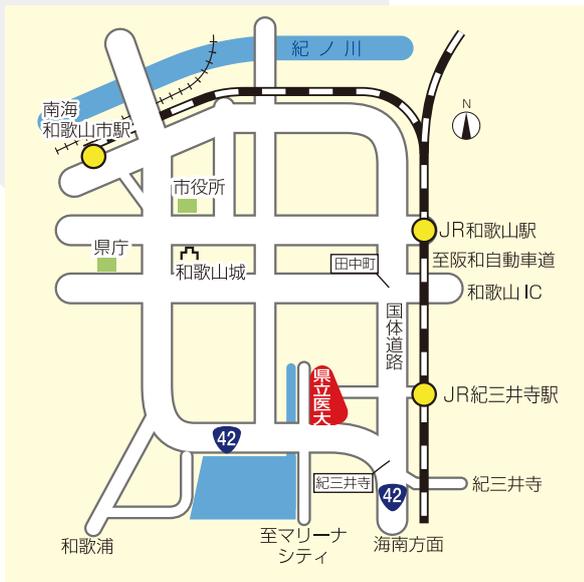


和歌山県立医科大学 地域医療支援センター

〒641-8509 和歌山市紀三井寺811番地1

TEL : 073-441-0845 FAX : 073-441-0846

Access Map



- JR紀三井寺駅 → 徒歩(約10分)
- JR和歌山駅 → バス・タクシー
- 南海和歌山市駅 → バス・タクシー

- JR和歌山駅前
1 番のりば「医大病院」行 約25分
2 番のりば「医大病院」行 約30分

- 南海和歌山市駅前
1 番のりば「医大病院」行 約30分
8 番のりば「医大病院」行 約30分
9 番のりば「医大病院」行 約30分

令和 3 年 6 月 発行

発行 和歌山県立医科大学 地域医療支援センター センター長
和歌山県地域医療支援センター センター長

教授 上野雅巳